

スポールブール男子世界選手権報告書

2022 年 11 月
男子日本代表チーム

今大会出場にあたり多くの方々にご声援・ご支援頂きました事をこの場を借りて御礼申し上げます。

1、大会概要

【大会】

40 回スポールブール男子世界選手権(モナコ皇太子杯)

【日程】

2022 年 11 月 1 日(火) ～ 11 月 5 日(土)

【開催場所】

トルコ共和国(メルスィン市)

【参加国】

28 カ国

(出場：ヨーロッパ大陸 19 カ国、アフリカ大陸 4 カ国、
アメリカ・南米大陸 3 カ国、アジア・オセアニア大陸 2 カ国)

【備考】

今大会は大陸別予選がなく、オープン参加。

2019 年と同会場 (▶[2019 年大会報告書](#))

【出場種目】

- ・ 豊田選手 (コンビネ・プレシジョン・ダブルス)
- ・ 熊野選手 (シングル・ダブルス)
- ・ 兼坂選手 (プログレッシブ)

※ラピッド種目は不参加

【スケジュール】

DIMANCHE 30 OCTOBRE / DOMENICA 30 OTTOBRE		
Arrivée des Délégations non Européennes / Arrivo delle Delegazioni extra-Europee		
LUNDI 31 OCTOBRE / LUNEDÌ 31 OTTOBRE		
Arrivée des Délégations Européennes / Arrivo delle Delegazioni Europee		
Entraînement des équipes sur le terrain / Allenamento delle squadre sul campo		
20:00	Tirage au sort / Sorteggio	
MARDI 1 ^{ER} NOVEMBRE / MARTEDÌ 1 ^O NOVEMBRE		
08:30	Double / Coppie	Poules : 1 ^{ère} Phase / 1 ^a Fase
10:30	Tir de Précision / Tiro di Precisione	Qualifications : 1 ^{er} passage / Qualificazioni: 1 ^o passaggio
12:30	Tir Progressif / Tiro Progressivo	Qualifications / Qualificazioni
14:00	Simple / Individuale	Poules 3, 4, 5, 6 : 1 ^{ère} Phase / 1 ^a Fase
16:00	Combiné / Combinato	Poules : 1 ^{ère} Phase / 1 ^a Fase
20:30	Cérémonie d'ouverture-Présentation des équipes/Cerimonia di Apertura-Presentazione delle squadre	
MERCREDI 2 NOVEMBRE / MERCOLEDÌ 2 NOVEMBRE		
08:30	Combiné / Combinato	Poules : 2 ^{ème} Phase / 2 ^a Fase
10:00	Tir de Précision / Tiro di Precisione	Qualifications : 2 ^e passage / Qualificazioni: 2 ^o passaggio
12:30	Simple / Individuale	Poules 1,2, 7,8 : 1 ^{ère} Phase / 1 ^a Fase Poules 3 et/4 : 2 ^{ème} Phase / 2 ^a Fase
14:30	Tir Rapide en Double / Tiro Veloce a Coppie	Qualifications / Qualificazioni
16:30	Double / Coppie	Poules : 2 ^{ème} Phase / 2 ^a Fase
18:30	Simple / Individuale	Poules 1, 2, 5,6, 7, 8 : 2 ^{ème} Phase / 2 ^a Fase
JEUDI 3 NOVEMBRE / GIOVEDÌ 3 NOVEMBRE		
08:30	Combiné / Combinato	Poules : Barrages / Spareggio
10:00	Simple / Individuale	Poules : Barrages / Spareggio
11:45	Tir de Précision / Tiro di Precisione	1/4 de Finale / 1/4 di Finale
12:45	Double / Coppie	Poules : Barrages / Spareggio
14:30	Tir Rapide en Double / Tiro Veloce a Coppie	1/4 de Finale / 1/4 di Finale
15:30	Tir de Précision / Tiro di Precisione	Demi-Finales / Semifinali
16:30	Simple / Individuale	1/8 ^{ème} de Finale / 1/8 ^o di Finale
18:30	Double / Coppie	1/8 ^{ème} de Finale / 1/8 ^o di Finale
VENDREDI 4 NOVEMBRE / VENERDÌ 4 NOVEMBRE		
08:15	Combiné / Combinato	1/8 ^{ème} de Finale / 1/8 ^o di Finale
09:45	Tir Progressif / Tiro Progressivo	1/4 de Finale / 1/4 di Finale
10:45	Double / Coppie	1/4 de Finale / 1/4 di Finale
13:00	Simple + Combiné / Individuale + Combinato	1/4 de Finale / 1/4 di Finale
14:45	Tir Rapide en Double / Tiro Veloce a Coppie	Demi-Finales / Semifinali
15:15	Double / Coppie	Demi-Finales + class. 5 ^e - 8 ^e / Semifinali + 5 ^o - 8 ^o classif.
17:15	Tir Progressif / Tiro Progressivo	Demi-Finales / Semifinali
17:45	Simple + Combiné / Individuale + Combinato	Demi-Finales + class. 5 ^e - 8 ^e / Semifinali + 5 ^o - 8 ^o classif.
20:30	DÎNER DE GALA / CENA DI GALA	
SAMEDI 5 NOVEMBRE / SABATO 5 NOVEMBRE		
09:45	Simple + Combiné / Individuale + Combinato	Finale
11:45	Tir Rapide en Double / Tiro Veloce a Coppie	Finale
12:00	Tir de Précision / Tiro di Precisione	Finale
16:00	Double / Coppie	Finale
18:30	Tir Progressif / Tiro Progressivo	Finale
19:30	REMISE DES MÉDAILLES - CÉRÉMONIE DE CLÔTURE / PREMAZIONI DI MEDAGLIE - CERIMONIA DI CHIUSURA	

4 NOVEMBRE 2022 / 4 NOVEMBRE 2022

2、大会目標

- ・全種目でベスト8以上

3、男子日本代表チーム

【監督兼選手】 豊田 想 (10大会連続出場)

【コーチ】 渡邊 豊明 (現地にてヘッドコーチ)

【選手】 熊野 健 (2大会ぶり2回目)、兼坂 俊之介 (3大会連続出場)

【サポートメンバー】 薮崎 聡 (メディカル・コンディション)、
盛岡 行雄 (総務)、柏原 秀光 (広報)



(左) 合同開催ラッファ世界選手権日本代表

(右) スポールブール男子日本代表

4、結果

【総合順位】

第17位

【シングル：熊野選手】

第9位 ※予選突破

(予選： ○12-10対レバノン、×7-13対アルゼンチン、
○13-5対レバノン)

決勝トーナメント1回戦：●11-13対スイス)

【ダブルス：豊田選手・熊野選手】

第9位 ※予選突破

(予選： ●11-13対モンテネグロ、○11-10対オーストラリア、

決勝トーナメント1回戦：●11-13対ボスニアヘルツェゴビナ)

【コンビネ：豊田選手】

第9位 ※予選突破

(予選： ●16-22対セルビア、○13-10対スロバキア)

決勝トーナメント1回戦：●12-24スロベニア)

【プレジジョン：豊田選手】

第15位 (1回目：3点 2回目：14点 合計：17点)

【プログレッシブ：兼坂選手】

第10位 (35点／45球)

5、大会会場

全10コート、ラッファ世界選手権と同時開催。特徴はかなりボールが跳ねやすいコートです。ダイレクトを狙わないとボールが跳ねてヒットしない可能性があります。特にビットティールはダイレクトヒットが必須となります。ポワンテは砂が多い部分と全くない部分が1コート内でも混合しており、強弱のコントロールが各国にとって難しいコートでした。



▶[事前練習動画](#)

6、全体総括

今回の世界選手権はアジア・オセアニア大陸予選がなくオープン参加の大会となりました。（主要国としては中国、ペルーが不参加）

全種目ベスト8以上を目標に大会に挑みましたが、結果、出場全5種目でベスト16という結果に終わりました。全種目ベスト16という結果は、過去最高成績となります。特に各選手が準備して挑んだ種目（豊田：プレシジョン、熊野：シングル、兼坂：プログレッシブ）では、選手は現状のベストを出し切りベスト8になれる可能性が大いにあった事は大きな自信となりました。

しかしながらベスト8常連国との選手層や技術・戦術の差は歴然としているため、その差を埋めるべく更なる努力の必要性を再認識しました。

7、種目別詳細報告

（1）シングルス（熊野選手 結果：9位 ※予選2位突破）

POULE III	1 ^{ère} Phase	HUN	KASA ADAM	1	13	MONTEMERLO GUILLERMO	ARG
		LBN	EL HARIRI BASCIR	10	12	KUMANO TAKESHI	JPN
	2 ^{ème} Phase	ARG	MONTEMERLO GUILLERMO	13	7	KUMANO TAKESHI	JPN
		HUN	KASA ADAM	1	13	EL HARIRI BASCIR	LBN
	Barrage	JPN	KUMANO TAKESHI	13	5	EL HARIRI BASCIR	LBN
	Classement	1 ^{er} : MONTEMERLO GUILLERMO (ARG)			2 ^{ème} : KUMANO TAKESHI (JPN)		

1/8 ^{ème} de FINALE	SUI	CAPRARO STEPHANE	13	11	KUMANO TAKESHI	JPN
	ARG	MONTEMERLO GUILLERMO	13	4	GUILLEN DANIEL	ESP
	SRB	MILAKOVIC MILOS	13	2	MACHADO VIRGILE	POR
	CRO	CUBELA MARIN	9	8	GADALETA GIUSEPPE	USA
	TUN	AYADI MOURAD	10	1	LAUGIER NICOLAS	MON
	GER	OLUJIC MIROSLAV	6	11	CEH ERIK	SLO
	ITA	GRATTAPAGLIA LUIGI	13	2	GLAVINIC JOSIP	BIH
	FRA	CHIRAT GREGORY	10	3	EL GUAMOISS MOHAMED	MAR

	ボワンテ	ティール	ボワンテ	ティール	参考
1 試合目	レバノン		日本		
	21/47	5/13	22/36	5/14	レバノン ビットT 2/2
	45%	38%	61%	36%	
2 試合目	アルゼンチン		日本		
	12/30	10/13	22/42	3/6	
	40%	77%	52%	50%	
3 試合目	レバノン		日本		
	16/38	1/10	18/30	7/17	
	42%	10%	60%	41%	
4 試合目	スイス		日本		
	18/42	4/9	14/36	6/15	
	43%	44%	39%	40%	



▶対レバノン（[1試合目](#)、[2試合目](#)）

▶対[アルゼンチン](#)

▶[事前インタビュー](#)



▶対[スイス](#)

【目標】

- ・ベスト 8

【日本での準備】

- ・日々のティール練習、週末での実践練習

【今後の課題】

- ・ティール率、ポワンテ率の UP（特に 1 試合通じての安定）
- ・メンタルトレーニング
- ・戦略、戦術の幅を広げる
- ・専用コートに合わせてたポワンテ技術の習得

【考察】

- ・第 1 試合(レバノン) 結果○12-10

初戦は、レバノンとの対戦となった。

試合の中盤までは、寄せてもビュットティールを決められ 2 回ノーメヌとなるなど、3-8 と苦しい展開であったが、タイムアウトで気持ちを整理したあとは流れが変わり、12-10 で勝利した。内容は、ポワンテについては、1 試合を通して相手にティールをさせる所に置き、ティールも決める時は決められた。

最後まで諦めない気持ちを持ち続けられたことが、勝利へと繋がった。

- ・第 2 試合(アルゼンチン) 結果×7-13

2 試合目は、アルゼンチンとの対戦となった。

結果的に今大会優勝した相手であったが、初戦と同様にティールをさせる所にボールを置くことができたため、相手のティールミスで得点ができた試合内容であった。ティールを駆使して自分のできる戦略で試合を行ったが、それ以上に技術が高く、多くの試合の引き出しを持っている相手に喰らいつくのが精一杯であった。

- ・第 3 試合(レバノン) 結果○13-5

3 試合目は、再度レバノンとの対戦となった。

前回との対戦と違い、1 度もリードされることなく勝利することができた。内容も相手がティールミスしてコートの奥に残った自ボールを、こちらが相手ボールをティールして得点することができたり、ティールのダブルヒットを決め

て楽に 3 点取ることができたり、日本で準備したことが実を結んだ試合であった。

この勝利で、2 回目の世界選手権出場で初のベスト 16 入りを決めた。

・決勝トーナメント 1 回戦(スイス) 結果×11-13

ベスト 8 をかけた初戦は、6 グループ 1 位のスイスとの対戦となった。

結果的に今大会 6 位の相手であったが、1 メーヌ目でポワンテが寄らず、3 失点スタートとなってしまったが、次のメーヌからは 1 球目のポワンテをビュット前に置く事に注意し、またティールも決まり始めた事で、11-4 までリードした。しかし、ここで勝てるかもしれないと「悪い気持の欲」が出てしまい、連続して 13m のポワンテが寄らず、あっという間に同点、逆転され敗れてしまった。このような試合展開では、1 点ずついつも通り加点する気持ちで望まないと、このような逆転劇が起こってしまうことを痛感した。

<ポワンテ成功の定義>

- ① 点数となったポワンテ ②相手がティールを選択したポワンテ
- ③ 相手と球数が同じ時に入った（入っている）ポワンテ

(2) ダブルス (豊田選手・熊野選手 結果：9 位 ※予選 2 位突破)

POULE IV	1 ^{ère} Phase	AUS	BORRELLI A / TOMASI E	5	10	RANKOVIC T / PETKOVIC M	MNE
		JPN	HAYASHI S / KUMANO T				
	2 ^{ème} Phase	MNE	RANKOVIC T / PETKOVIC M	13	1	HAYASHI S / KUMANO T	JPN
		AUS	BORRELLI A / TOMASI E				
	Barrage	JPN	HAYASHI S / KUMANO T	11	10	BORRELLI A / TOMASI E	AUS
	Classement	1 ^{er} : RANKOVIC T / PETKOVIC M (MNE)			2 ^{ème} : HAYASHI S / KUMANO T (JPN)		

1/8 ^{ème} de FINALE	SUI	CAPRARO S / FRANCHINI E	6	13	SABAN K / CUBELA M	CRO
	FRA	BELAY S / CHIRAT G	13	1	MILAKOVIC M / BUTORAC S	SRB
	ESP	GUILLEN D / ALAPONT J	0	13	MONTEMERLO G / CAPDEVILE F	ARG
	USA	GADALETA G / TOSI B	6	8	ELSEGHER A / DEYA A	LBA
	BIH	MIKULIC N / GRANCIC M	13	1	HAYASHI S / KUMANO T	JPN
	SLO	TONEJC D / SVARA M	12	5	OLUJIC M / BISCO J	GER
	MNE	RANKOVIC T / PETKOVIC M	7	13	GRATTAPAGLIA L / NARI S	ITA
	MON	LAUGIER N / GARCIA A	13	1	LINDVEST / REMMELKOOR	EST



▶対モンテネグロ (▶事前インタビュー)



▶対オーストラリア (▶事前インタビュー)



▶対ボスニアヘルツェゴビナ

【目標】

- ・ベスト8

【日本での準備】

- ・二人での準備期間が短く（2022年4月～）個々でのティール率アップが中心となった。ゲーム感覚やダブルスでのポワンテ、ティールのシュチュエーション別対策等、準備不足となった。

【今後の課題】 ※参考：2019年大会時の課題

- ・ティーラーのヒット率（ビット含む）7割以上の安定
↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
- ・ポワンテ、ティール共に遠距離対応
↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする

- ・ティージャーとポワンターが交換できる技術準備
 - ↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
- ・ポワンターのティール率向上、ティージャーのポワンテ率向上
 - ↑ 専用コートを想定した準備の必要性を認識

【考察】

＜豊田選手＞

モンテネグロとオーストラリアと同じグループで、3カ国で3番目だったため1試合目は不戦勝となり、両者の勝者に勝てば1位通過、敗者に勝てば2位通過。

モンテネグロは常連の選手であったが、オーストラリアは主力選手ではなかった。そのためモンテネグロ戦は下記にもある通りポワンテ率、ティール率で大幅に下回ったため1点しかとれず敗退となった。1メーヌのみ大量得点のチャンスが来そうだったが、ビットティールを難なく決められ、その後チャンスが来ることがなかった。

オーストラリア戦では1メーヌ目に1点獲得したが、その後はオーストラリアペースで進み、1-8までリードを広げられたが、オーストラリアのティール、ポワンテが乱れ、熊野選手のティールで一気に4点を獲得、その後も日本チームのポワンテが安定した事により、相手のポワンテ・ティールミスを誘う事により一気に4点を獲得、10-11と1点ビハインドでむかえた最終メーヌでは、熊野選手が最終球でポワンテを見事決めて大逆転勝利となり、予選2位通過を決めた。

ベスト8をかけて挑んだボスニアヘルツェゴビナ（BIH）との戦いでは、日本のポワンター、ティージャー共に調子が上がらず、早々と4メーヌ目で役割を交代し、体制を立て直しにかかった。大量得点を阻止するために豊田選手がビットティールを試み成功したが、フットアウトをとられ無効となりそのメーヌ4点をとられ、その後も調子を取り戻す事ができず点を重ねられ敗退となった。

今大会はチームとしてダブルスの準備が足りず、次回大会に向けては、この悔しさを忘れる事なく、大会後も継続して準備をしていく。

＜熊野選手＞

- ・第1試合(モンテネグロ) 結果×1-13

初戦は、モンテネグロとの対戦となった。

ティールとして国内練習から準備をしてきたが、ヒット率が低く、且つポワンターに対してもコートのクセ等のアドバイスを瞬時に指示することができず、自滅するような形で試合が終了してしまった。

・第2試合(オーストラリア) 結果○11-10

2試合目は、オーストラリアとの対戦となった。

この試合もティールとして臨んだが、2メーヌ目にポワンテを寄せることができず5失点するなど、中盤まで2-7と苦しい展開であった。ただ、初戦よりも要所でティールを決め、相手のミスが多くなる流れになり、5メーヌ目に5点を取り返すなど、9-10で最終メーヌを迎えた。相手が残る2球のうち1球ティールを決めれば勝ちという場面で2球共にミスをし、逆に残り1球をしつかり寄せて逆転勝利を収めた。この試合も、最後まで諦めない気持ちを持ち続けられたことが、勝利へと繋がった。この勝利で、2回目の世界選手権出場が初のベスト16入りを決めた。

・決勝トーナメント1回戦(ボスニア・ヘルツェゴビナ) 結果×1-13

ベスト8をかけた初戦は、6グループ1位のボスニア・ヘルツェゴビナとの対戦となった。結果的に今大会5位の相手であったが、ティールとポワンターが共に調子が悪く、試合途中で交代する事で流れを変えようとしたが変わらず、1試合目同様に自滅するような形で試合が終了してしまった。

	ポワンテ	ティール	ポワンテ	ティール	参考
1試合目	モンテネグロ		日本		
ポワンター	13/21	—	9/18	1/1	
	62%		50%	100%	
ティール	4/5	12/15	3/7	3/11	MNT ビットT 1/1
	80%	80%	43%	27%	
2試合目	オーストラリア		日本		
ポワンター	10/23	—	11/24	—	
	43%		46%		
ティール	3/9	6/15	6/13	4/11	AUS ビットT 0/2
	33%	40%	46%	36%	JAN ビットT 0/2
3試合目	BIH		日本		
ポワンター	12/20	0/1	8/19	0/2	JAN ビットT 0/1
	60%	0%	40%	0%	4メーヌ目からポワンターとティール交換
ティール	10/16	3/5	6/17	1/4	JAN ビットT 0/1
	63%	60%	35%	25%	

＜ポワンテ成功の定義＞

- ① 点数となったポワンテ ②相手がティールを選択したポワンテ

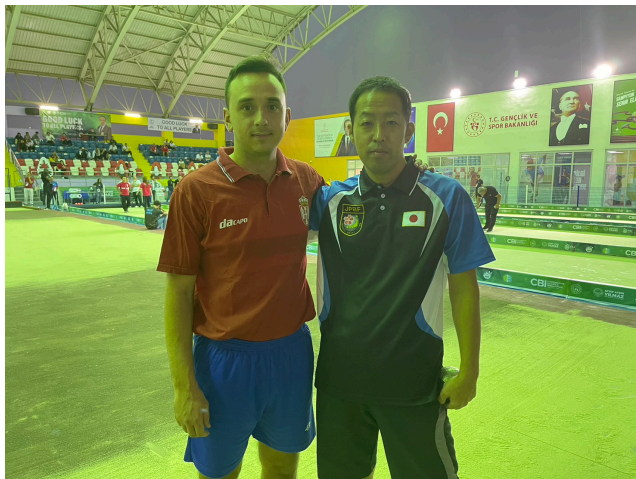
④ 相手と球数が同じ時に入った（入っている）ポワンテ

(3) コンビネ（豊田選手 結果：9 位 ※予選 2 位突破）

POULE I	1^{ère}Phase	JPN	HAYASHI SO	16	22	BUTORAC SRDJAN	SRB
		SVK	OBROCNİK DANIEL				
	2^{ème}Phase	SRB	BUTORAC SRDJAN	12	9	OBROCNİK DANIEL	SVK
		JPN	HAYASHI SO				
	Barrage	SVK	OBROCNİK DANIEL	10	13	HAYASHI SO	JPN
	Classement	1^{er} : BUTORAC SRDJAN (SRB)			2^{ème} : HAYASHI SO (JPN)		

1/8^{ème}	BIH	CORLUKA ANDRIJA	21	20	SAHIH TOUFIK	ALG
	MON	GARCIA ANDY	18	14	KARATAS MEHMET	TUR
	TUN	ACHREF ZOUAOU	17	19	CATILAO DANIEL	CHI
	CRO	CUBELA PERO	20	11	BORRELLI ANTONIO	AUS
	ARG	FARIAS HERZO	18	10	ALAPONT JOSEP	ESP
	SUI	FONTANA ROBERTO	20	17	MIKULIC BRANKO	GER
	SRB	BUTORAC SRDJAN	18	21	BENOIT JEROME	FRA
	SLO	TONEJC DEJAN	24	12	HAYASHI SO	JPN

※12 点ではなく 13 点の誤記



▶対セルビア



▶対スロバキア (▶事前インタビュー)



▶対 [スロベニア](#) (▶[事前インタビュー](#))

【目標】

- ・平均 20 点以上でベスト 8

【日本での準備】

- ・ビットティールをしないでも平均 20 点
- ・遠距離のティール・ポワンテ実践

【今後の課題】 ※参考：2019 年大会時の課題

- ・ビットティールの技術、使うタイミングの習得
 - ↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
- ・20 点平均、25 点を定期的にとれる技術
 - ↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
大会 1 週間前の調整試合では 25 点以上とれていたため技術的には上がっていたが、定期的にとれる技術が必要。
- ・ビット権をとった時、とってないときの戦い方
 - ↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
- ・ティール先行、ポワンテ先行の戦い方の習得
 - ↑ 準備不足が否めなかったためしっかり準備をする
- ・遠距離のティール、ポワンテ
 - ↑ ティールについてはある程度準備ができ、距離の苦手意識は無くなった。

ポワンテは準備不足が否めなかったためしっかり準備をする

【考察】

・セルビア戦

2019 年世界選手権コンビネ銅メダリストの実力者との一戦。

第 2 メーヌ（ティール）の調子が上がらず 1 点に終わったのが響いた。

コンビネは 8 メーヌしかないため序盤に差がつくと、強豪国相手にモチベーションを含め追うのが難しくなる（相手のペースになる）ため序盤 3 点獲得できる技術を身につける必要がある。日本が各メーヌ 2 点の加点に対してセルビアは安定して 3 点以上を獲得するメーヌが続き、セルビアの安定度に隙がなく、最後まで流れを掴めなかった。ポワンテ、ティール共になんとか 8 点獲得できた状態だったため、勝機が一度もなく試合が終了してしまった。

・スロバキア戦

実力的には格下相手との戦い、ポワンテ、ティール共に調子が上がらず、ティールヒットもフットアウトをとられ 5 メーヌ終わった時点で 7-8 とリードを許してしまったが、6 メーヌ目のポワンテで 2 点とった後に、ビブロンを決めて 11-7 と逆転できそのまま勝利できたが、本来であれば容易に勝利しなければいけない相手だった。

・スロベニア戦

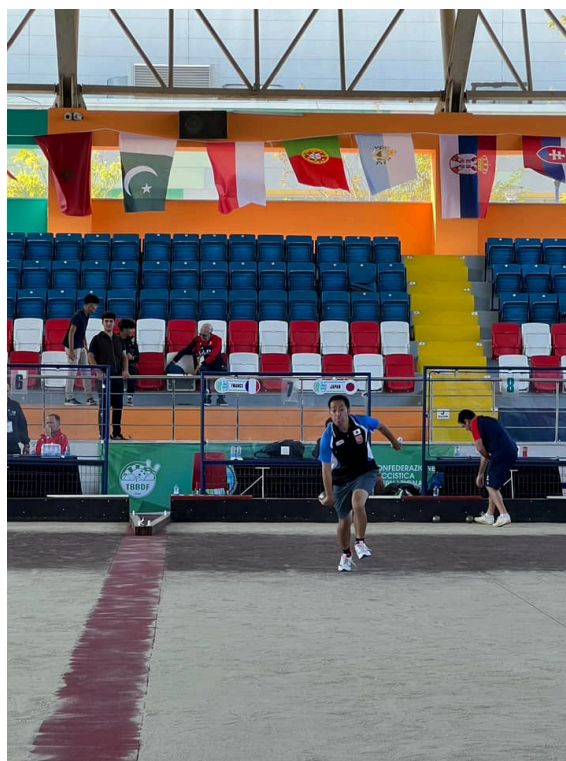
前回世界王者とベスト 8 をかけた戦いだったが、セルビア戦と同じ展開となってしまう。ティール時にボールが跳ねてしまう事が続いたが、競合国はダイレクトで狙える技術があるため、差がでてしまった。ポワンテも最後までコートでの感覚が掴めなかった。（オーバーが多く、ゆるめるとショートになる）相手がビットを失敗した時も、相手がポワンテと勘違いをし、ビブロンがしにくい場所にビットを自ら配置する等、日本でのゲーム感覚準備不足も露呈した。

<スコア詳細> ※T はティール, P はポワンテ

・日本	16 点 (T 8 点・P 8 点)	セルビア	22 点 (T 9 点・P 13 点)
・日本	13 点 (T 6 点・P 7 点)	スロバキア	10 点 (T 3 点・P 7 点)
・日本	13 点 (T 8 点・P 5 点)	スロベニア	24 点 (T11 点・P 13 点)

(4) プレシジョン (豊田選手 結果：15 位)

QUALIFICATIONS													
			Sc. 1	Sc. 2	Tot.	Cl ^r			Sc. 1	Sc. 2	Tot.	Cl ^r	
1.	JPN	HAYASHI SO	3	14	17	15	15.	SVK	PAVCO PATRIK	7	1	8	24
2.	CRO	CUBELA PERO	4	16	20	10	16.	HUN	KISS MATHIAS	0	0	0	27
3.	SLO	SVARA MARKO	17	17	34	2	17.	ITA	GROSSO DANIELE	11	20	31	5
4.	FRA	BELAY SEBASTIEN	20	13	33	3	18.	LBN	EL HARIRI BASCIR	12	7	19	11
5.	SUI	FONTANA ROBERTO	7	12	19	11	19.	TUR	MECIT EMRE	9	6	15	18
6.	LBY	ELSEGHER ALI	8	6	14	19	20.	MAU	POURROY JEAN MICHEL	1	NP	1	26
7.	TUN	FERCHICHI ABDELWAHID	9	9	18	14	21.	ALG	MOKHTARI MUSTAPHA	12	11	23	8
8.	MNE	RANKOVIC TOMISLAV	13	16	29	7	22.	SER	KOVACEVIC DAJAN	0	12	12	20
9.	MON	LAABIDI WAEL	9	23	32	4	23.	MAR	EL GUAMO USS MOHAMED	1	8	9	22
10.	LTA	PALELUNAS ANDO	0	0	0	27	24.	CHI	TOSO GIACOMO	11	11	22	9
11.	GER	MARUSIC KRESIMIR	4	4	8	25	25.	POR	MACHADO VIRGILE	7	3	10	21
12.	ARG	CAPDEVILE FOCUNDO	16	15	31	6	26.	USA	GADALETA GIUSEPPE	4	11	15	17
13.	EST	LINDVEST ARTI	3	6	9	23	27.	ESP	GUILLEN DANIEL	16	18	34	1
14.	BIH	MIKULIC NIKOLA	10	8	18	13	28.	AUS	BORRELLI ANTONIO	7	10	17	16



▶ [1回目](#) ▶ [2回目](#)

【目標】

- ・ 2回合計 30 点以上でベスト 8、調子を維持して世界王者を狙う。

【日本での準備】

- ・ターゲット毎の立ち位置、ターゲットボールをヒットするためにどこを狙うべきかを分析し、実現のためのトレーニング

↑ 毎日の練習でもプレシジョンのターゲット別練習を実施

(立ち位置：5、6ターゲットは右足が赤ターゲット

7、8、9、10ターゲットは真っ直ぐ)

- ・エンブティボールの実用 ← 今大会では使用無し
- ・エラーパターン把握と瞬時の修正方法の習得 ← 日々の練習で習得

【今後の課題】

- ・フットアウト（5、11ターゲット）を無くすために5歩助走とする

- ・右、左、右、左、右でしっかりのせて投げるタイミングの習得

(専用コートだとおのりすぎてしまうがリリースポイントを右膝に抑えるように固定する。右の踏み込み位置を固いコートでできるよう練習場を工夫する)

- ・リリース前の右足時の右手甲ポイントを真っ直ぐ投げれるよう位置を意識
- ・リリース時に体を右に捻らず真っ直ぐ前に投げる

【考察】

日本の練習時もフットアウトに懸念があり、半年前からチームメイトに確認してもらいながら、毎日の練習でも注意して対策していた。明らかなフットアウトは無くなったが、勢いがつくとわずかに線を踏む事があった懸念が、本番ででてしまった。フォームを崩すよりは、フットアウト覚悟で準備してきたフォームで投げる事を決めていたので、フットアウト後も気持ちを切り替えて投げられたため崩れることはなかった。

(厳格な審判に当たってしまったことも不運だった。※イタリアも同審判に決勝戦で2回フットアウトをとられていた)

1試合目が今回大会、自身初試合という事もあり、リリース時のタイミングを専用コートに合わせる準備が完全にできていなかったため、今後は、日本でも専用コートの環境でフォームを固めるようにしたい。3分間事前練習ではオーバーが続き調整がしきれないまま本番となった。オーバーの原因が分からずスピードを落とす意識で対応を試みたが足と手のタイミングがずれて1、2球目は右に大きくずれてしまった。以降はリリースポイントを右膝に変える事で距離感が徐々に調整できたが、プレシジョンの試合中に調整している状態だっ

たので、結局3点で終わってしまった。感覚的にはよく3点とれたというイメージだった。

前日の事前練習時にティールリリースタイミングを体に覚えさせるのに1時間半程（ポワンテ含）かかってしまったことにより、右足横筋が筋肉痛になってしまった。（専用コートだと重心がかかる右足に負担がかかるため）、前日練習時の最初は右足に乗りすぎていた。日本のコートだと柔らかいため右足にのせたあとに右腕も使い、リリースポイントを上にしないと遠距離が届きにくいですが、専用コートだと前述の通りリリースポイントの意識を右膝付近にして丁度良かった。前日の練習時のプレジジョンは悪くはなかったが、翌日になると前日の疲労も影響してか、タイミングを掴みきれなかった。

全体的に1試合目の得点が低く、2試合目の結果によってはベスト8が十分狙える事が分かったと、前日夜から何故か全球当たるような感覚になった。これは試合を重ねるにつれてコートとフォームに一体感がでてきた効果だった。

結果フットアウトを除くと7球ヒット、1球（ターゲット4）が少し深すぎて赤玉ヒット（エンブティボールだったらヒットの可能性大）、3球（ターゲット7、9、10）がリリース時に右に捻るエラーとなった。

フットアウトを除けば技術的には2大会連続のベスト8となったため、次回は今回の課題を改善し、メダル獲得、世界1に挑みたい。

【参考】

1/4 DE FINALE						
A	4.	MON	LAABIDI WAEL	1		
	5.	ITA	GROSSO DANIELE	25		Q
B	3.	FRA	BELAY SEBASTIEN	20		Q
	6.	ARG	CAPDEVILA FACUNDO	18		
C	2.	SLO	SVARA MARKO	16		Q
	7.	MNE	RANKOVIC TOMISLAV	11		
D	1.	ESP	GUILLEN DANIEL	10		Q
	8.	ALG	MOKHTARI MUSTAPHA	7		

1/2 FINALES						
1	B.	FRA	BELAY SEBASTIEN	6		
	C.	SLO	SVARA MARKO	19		Q
2	D.	ESP	GUILLEN DANIEL	9		
	A.	ITA	GROSSO DANIELE	22		Q

FINALE						
1	SLO	SVARA MARKO	20		2	
2	ITA	GROSSO DANIELE	24		1	

(5) プログレッシブ (兼坂選手 結果 : 10 位)

QUALIFICATIONS											
			Sco.	Bar.	Cl.				Sco.	Bar.	Cl.
1.	ALG	BENSLIM MOHAMED	36/47		8	10.	FRA	CHIRAT ALEXANDRE	48/50		1
2.	EST	REMMELKOOR ALLAN	12/42		18	11.	MON	TRICHARD ALEXANDRE	28/44		11
3.	SER	SERAFIMOVIC NIKOLA	28/45		11	12.	TUR	CAN YAKIN MEHMET	38/49	25/26	7
4.	ITA	PEGORARO STEFANO	45/51	26/27	2	13.	MNE	STJEPCEVIC GRACIJA	45/49	23/25	3
5.	POR	MACHADO VIRGILE	25/37		15	14.	CRO	MILICEVIC MARINO	43/50		5
6.	MAU	JADOO VIJAYRASING	15/39		17	15.	ARG	HECKER LUCAS	41/47		6
7.	JPN	KANESAKA SHUNNOSUKE	35/45		9	16.	LBY	DEYA ALI	29/44		10
8.	SVK	PAVCO PATRIC	26/47		14	17.	SLO	PETRIC ANZE	45/48	22/26	4
9.	BIH	GRANCIC MARIO	28/45		11	18.	HUN	KASA ADAM	18/45		16

※BIH が 38 点の誤記 8 位



▶[試合映像](#) ▶[事前インタビュー](#)

【目標】

- ・ ベスト 8 得点：35 点以上

【日本での準備】

- ・ 出場種目をプログレッシブに絞って、準備し、毎週記録会を実施
- ・ サポートメンバーによるエラーパターンのアドバイス
- ・ 残り秒数での最終投球イメージ

【今後の課題】

- ・ 5 分間安定したヒット
- ・ 投球数を 47 球以上にする
- ・ ケアレスミスをなくす。（フットアウト、ボールを落とす）

【考察】

前半の 2 分間は 19 球中 8 球ミスでのスタートも中盤、後半の 3 分で脅威の追い込みで 26 球中 24 点を獲得。序盤プラス 2 点ヒットも、ケアレスミス（フットアウトと、ボール落下後のスタンドタッチをしなかった）で点が没収されたのが悔やまれたが、今ある力を出し切り、世界選手権での日本人ベスト記録達成した。アジア・オセアニア選手権でオーストラリア、中国を破り、世界ベ

スト8以上となるには走力UPと5分間安定したヒット、ケアレスミス無くせば、充分可能性がある事が証明できた大会となった。

8、各自考察

(1) 豊田監督兼選手

【チームビルディング】

・阿部コーチが現地に不在の状況となったが、渡邊コーチを筆頭にサポートメンバー（盛岡氏、薮崎氏、柏原氏）がその役割を十分に補う事ができ、チーム全体がいい雰囲気です試合に挑む事ができた事に感謝をしたい。

また、残念ながら本戦出場ができるレベルには到達しなかったが、ラピッド日本代表候補公募でも10名以上の選手が挑戦し、一定の成果は出せた。

【広報】

・大会前のインスタライブ、男子日本代表の愛称（鉄球 JAPAN）決定、ロゴやバッジ、バナー、歌の制作、スポンサー集め等、今までにないチャレンジをしたことで、より多くの方にスポールボールを知ってもらうきっかけをつくれた。

・試合中は柏原氏を中心に初めての試みとしてオンラインライブ中継を実施。

【体調管理】

・ホテルの水道水にて歯磨きをした事がおそらく原因で下痢に悩まされた。開会式では立ってられない程に悪化しており、試合までに自身のベストコンディションで挑む事に時間や気を使ってしまったため、途上国での開催時は、水や食事に一層気をつけていきたい。

・専用コートに合わせたティール、ポワンテの感覚が掴めず1時間半程公式練習を実施したのが影響し、右足筋が筋肉痛となってしまった。（固い専用コートに右足を使うティールフォームにした影響）、薮崎メディカルサポーターのケアのお陰もあり試合には影響はなかったが、短期間で調整できるように日本で準備していきたい。

【技術】

・ポワンテについては、専用コートでは日本のコートのようにフットライン地点から浮かして投げる投げ方よりも、約1mから1.5m先で地面と喧嘩をせずに転がす技術が必要となるため、習得していきたい。

・ティールについては、フットアウト防止のために5歩助走とし、プレシジョン二回目の感覚のフォームを常にできるように準備していく。

【総括】

全種目ベスト8を達成するために各々が何をすべきかを、実施し、準備してきた現在の力は出し切れた。しかしポワンテとコンビネ、ダブルスのゲーム感覚の準備がしきれない事が露呈してしまった。全種目ベスト16は達成できたが、全種目ベスト8を目指すべき準備はできていなかった。

しかしながら、初めての世界選手権という状況ながらサポートメンバー3名がいた事が、心理的にも心強く、最高のチームづくりで挑めた事を誇りに思いたい。世界選手権までの準備や大会を通してコーチ、選手、サポートメンバー共に多くの成長ができた事は日本スポールボール界にとって新たな一歩となった。

今後はベスト8を目指す準備を全種目でしっかりし、次回大会へ挑みたい。

（2）渡邊ヘッドコーチ

ヘッドコーチ 渡邊 豊明

【準備について】

前々回大会は、メンタル・コンディショニングコーチとしての役割で準備期間は十分あったが、今回はヘッドコーチとして、テクニカルを含めトータルに選手をサポートすることが必要となり、諸事情により準備期間が2、3ヶ月となってしまった。そのため、各選手の特徴など十分な把握ができない状態での挑戦となった。

【大会でのコーチ実践について】

大会前の公式練習では、コートの特徴をノートに線で描き、各コート共にライン際が曲がる特徴があるなど情報収集を開始した。

大会開始後、シングルス、ダブルスでは、初めてトラディショナルのスコアブックを記録し、各国選手の特徴を把握することで精一杯であった。

試合を重ねる毎に、自国の選手や相手国の選手の特徴を把握し、戦術やコートの特性に合わせてアドバイスができるようになってきた。

大会を通して、一番印象に残っていることがある。シングルスでベスト8を懸けたスイス戦、前半7点リードでこのまま勝ちきってしまうかと思っていた

が、徐々に相手選手の調子が戻り、熊野選手が調子を崩している時のタイムアウトのことであった。ポワンテが思うように寄らず、相手が一番近い位置を狙ってくる場面で、困っている熊野選手に的確なアドバイスができなかった。ここ一番で、普段から選手の特性を把握していないため、どのような時に調子が良く、調子が崩れた時の修正法がイメージできなかったことは大きな課題であったと思われた。また、経験不足もあって、勝ちを意識してしまったことは反省点であり、最後まで何が起こるかわからないことを想定する必要性を強く感じた。

これらの反省を活かし、最終戦のコンビネでは、スロベニアの選手に徐々に点差を広げられる展開ではありましたが、どうすれば勝てるかを常に考え、自分の意見を豊田選手に伝えることができた。

【大会結果と今後の課題について】

大会の結果は、選手の頑張りがあって、すべての種目でベスト 16 以上と最高の成績で大会を終えることができた。

今大会で見えてきた課題がいくつかある。プログレッシブは、走力をアップし、投球数を増やすことで、ベスト 8 が目指せると思われる。トラディショナル種目は、ポワンテ力の弱さが勝敗を分けていた。これからは、ティール力はもちろんのこと、ポワンテも練習も実施する必要性を痛感した。

【最後に】

今回の日本代表団のチームは、それぞれの役割がしっかりしており、最高の働きができたと思われる。今後は、今回の課題をもとに、半年後の大陸別選手権に向けたチームを早期に選抜し、綿密なミーティング、合同練習など選手とコーチ間の信頼関係の構築し、全種目ベスト 8 を目指せるチームを作っていきたい。

（３）熊野選手

・大会を終えての感想

2019 年のアジア・オセアニア選手権の敗退を経験して、戦術にあったレベルアップを図った事により、シングルスとダブルスの両方で予選突破(ベスト 16)をすることができた。来年は、2024 年開催の世界選手権出場枠をかけた、アジア・オセアニア大陸予選が開催予定である。 今大会主力が出場していないオーストラリア、不参加の中国という、共に世界ベスト 8 の国のどちらかに勝たなければ出場枠が得られない状況に変わりはない。もうワンランク

アップした戦略で望めるよう、日々練習をしていきたい。

最後に、今回ご支援を頂いた日本ペタンク・ブール連盟、その他スポールブールに関わるすべての方々に御礼を申し上げます。

（４）兼坂選手

2022 年 11 月 1 日～5 日、トルコ（メルスィン）にて開催された男子世界選手権に出場しましたので報告いたします。

【出場種目および結果】

プログレッシブ 10 位（予選 35 点/45 投球）

【大会所感】

本大会の 1 週間前に行われた U23 世界選手権においては目標であった 8 位入賞を達成し、非常に良い流れ・イメージを持って本大会を迎えることとなった。そして U23 の試合では前半からかなり速いペースで入ったことで後半にかけて疲労が大きくなり点数が伸びなく

なったという結果があったことから本大会においては終始ペースを常に一定に保ちながら丁寧かつ確実に得点を積み重ねていくことを試合前から決めていた。

しかしながら U23 大会では前半立ち上がりの時間からリズム良く試合に入ることができたという感覚があったのに対して、本大会では先述したペース配分を考慮し丁寧すぎる入りをしてしまった結果若干リズムが噛み合わない状態に陥ってしまった。だが国内の練習においても常にリズムが崩れた状態からの立て直しを意識してきたこともあり、試合後半においてはリズムを取り戻して投球することができ、その練習の成果を如実に感じる内容であった。また本大会ではスタンドからボールを取る際に落球してしまいそのまま拾って投げたことで無効投球の判定となり、1 点を争う本種目においてはこうした曖昧なプレーを無くすことが不可欠であり、このような場合は 1 度スタンドに戻してから投球することが確実にであることを認識させられた。

U23 の所感にも記したことであるが他国とのプログレッシブにおけるティール技術についてはかつてのような大きな差はほぼ無くなってきていると感じたものの、依然として全身の持久力といった部分に関しては課題が明確にあらわれる結果となった。実際トップクラスの選手は 49～51 投球であり、現状からさらに 5 投球程ペースを上げて走る必要がある。投球数が増えればその分点数を伸ばすことができる上、ミスをしてその分をカバーすることが可能となり高

順位を目指す上では最低限その程度の投球数が必要となる。また単に走力をあげることに限らず、この種目の特徴であるターンの動きや止まった状態からの加速といった一連の流れの中での動きのスピードを見直して向上させる必要がある。これまで国内での練習は安定したティール技術の習得を主軸として行ってきたものの、今後はこうした練習に加えエンデュランス系のトレーニングを重点的に行うなど、さらなるレベルアップした練習方法の模索が欠かせない。また国内でプログレッシブ、ラピッド種目は未だ再現性のある効率的なトレーニング方法が確立されていないことから、その足掛かりとして自らの様々な経験を今後も可能な限り蓄積していきたいと考えている。

今大会は特にプログレッシブ種目の集大成として臨んだ大会であった。依然としてトップレベルの選手との差があることは明らかであるが目標としていた順位に限りなく近い結果を残すことができかつ自信を持ってプレーができたことは、今後さらに上を目指すことができるという確信を得ることのできるものであった。今後もより高みを目指しつつ自らの経験を多くの選手に伝えていく必要があると感じており、自らの記録向上にとどまらず国内の競技力の底上げを図っていききたいと考えている。

最後に改めまして今回の大会に際して帯同してくださった皆様、そして国内からも多くの応援、サポートをいただきましたこと、御礼申し上げます。

(5) 盛岡サポーター

【レポートの目的】

1. 監督からの下記要請に応える事。

□ 要請内容：「サポートの方は自分の役割について実施した事や課題、また世界選手権を通して感じた事や、これからすべき事などざっくばらんに記載ください。今月中目処でお願いいたします。」

2. 自分自身の経験と観察のみならず、周囲からの情報に基づく提案なども盛り込むことで、次回の担当者への引き継ぎ書を兼ねる事。

【実施した事や課題】

自分の役割：ビデオ撮影・通訳・現地スケジュール管理を含む総務

1. 実施した事と課題：一般総務

□ 国内線スケジュールの確認と配信

- 問題点：予約をしていない者及び予約の変更をしていない者が居た。
- 今後の課題：フライトの確定後に往復の情報をまとめて配信し、更に全員の予約完了の確認を行う。
- 各国、特にアブダビ入国条件の確認
- 問題点：確認が直前になり、短時間での接種証明の取得を迫られた。
- 今後の課題：十分な準備の時間を確保する為に、国際線のスケジュールが確定後、速やかに入国条件を確認し、少なくとも2週間前までには全ての条件をまとめて配信する。対応完了の確認も必要。また、マイナンバーカードの取得と接種証明アプリの活用を推奨する。
- 日本入国条件の確認
- 問題点：コロナワクチン接種回数が入国条件の3回に満たない者がおり、国際線発地のイスタンブールにて離脱し、航空券を再度購入の上、単独で帰国する事になった。
- 今後の課題：ワクチン接種回数が条件に満たない者の為に、参加者が確定直後に最新の条件を確認の上、情報を配信する。条件の変更に備えるために、一か月前に再度入国条件を確認の上、配信する。対応完了の確認も必要。
- 出発時のドレスコードの確認
- 問題点：出発直前まで確定せず、空港ロビーで指定ジャケットとパンツに着替える者が居た。
- 今後の課題：ドレスコードは出発の準備にも関わる事から、明確なルール設定が必要となる。
- 現地通貨(トルコ・リラ)の入手
- 問題点1：現地で発生する費用の事前情報が無かったため、出発直前に空港でのユーロへの両替が必要となった。
- 今後の課題1：現地で発生する費用については、事前に総務担当者に共有する必要がある。
- 問題点2：現地での日本円の流通度合いの情報が無かったため、トルコ・リラの入手する為にホテルの車を手配するなど、無駄が生じた。

□ 今後の課題 2: 事前に現地における日本円の流通度合い(円から現地通貨への両替の可否など)を確認しておくことが理想的。

□ 時間割及び役割分担と機材の確認一覧の作成

□ 問題点: 作成に着手したが情報不足と時間不足により準備が不十分となり、現地でその都度一人一人に口頭で

確認し合う事になった。

□ 今後の課題: 現地でのスケジュール変更は起こり得るものの、日本語での「旅のしおり」的な冊子を用意した方が
良い。変更が生じた場合も、毎日「旅のしおり」を見ながらの確認が可能になる。

2. 実施した事と課題: ビデオ撮影

□ 試合の撮影

□ 問題点: メモリーの容量が少ない事とダウンロード用の PC を持参していなかったことが原因で試合内容全てを録画する事が出来ず、後半の試合は各メーヌの終了前数球分のみを撮影するという妥協をせざるを得なかった。

□ 今後の課題: 撮影の目的を明確にし、大容量のメモリーと毎日ダウンロードできるようにパソコンを持参すべき。

また、再度必要性を検討すべき。

□ 通訳

□ 問題点: 英語が通じない場面が多く、シングルスチャンピオンなどへのインタビューを断られる場面が有った。

□ 今後の課題: 挨拶と目的を伝えるために必要な最低限の現地語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語のマニユ

アルを準備しておくことが望ましい。または、会場内の wi-fi を使って翻訳アプリで会話するなど、臨機応変さが求められる。

3. 実施した事と課題: 現地スケジュール管理

□ 問題点：大会側からの情報をメールで入手していると思われる者と、手元の情報が皆無の者が居た。また、アメリカチームによると情報の配信は Whatsapp にて行われているという話もあり、情報配信のチャネルが不明瞭のまま大会を過ごす事になった。また、大会会場および滞在先を含む大会全体に関する情報が不明の状態であったが、現地にて急遽スケジュール管理担当者を設けたため、全てを大会会場の担当者に聞いて回る必要に迫られた。

□ 今後の課題：大会への申し込みの段階で、スケジュール管理担当者にも大会の情報が入るような手配をする必要がある。なお、スケジュール管理担当者は、食事の時間や場所を能動的に確認してメンバーに通知する事が求められる。

4. 実施した事と課題：リビアチームのラピッドのサポート

□ 問題点：ラピッドの試合そのものに慣れていないため、プレーヤーに安心感を与えるサポートが出来なかった。

□ 今後の課題：通常の練習中にサポートそのものの練習を増やす事により、より良い準備を行う。また、練習をしていない種目サポートは行わないなどの判断が必要。

【公式練習日の過ごし方】

1. 観察及び他の情報からの事実

□ サポートスタッフは、多くの時間をメディア関係の確認に使っていた。

2. 今後の改善案

□ サポートスタッフは、メディア関係の確認よりも、他の国の公式練習中に各コートの癖を研究して共有すべき。

【試合観戦中の過ごし方】

1. サポートスタッフを中心に、自国の試合と同様に対戦国の試合内容の記録を取り、対戦相手の癖とコートの癖の記録を続けると更なる改善につながると思われる。

【データの活用】

1. 各試合における日本及び対戦国のポワンテ率とティール率を割り出し、簡単な勝因と敗因を導くと、何らかのパターンが見つかる

と思われる。

□ 現地でのミーティングでオーストラリア戦での勝因が話題になったが、その際に数字を使った会話が出来ると、今後の練習方法の検討材料となる。

2. 各選手の試合でのデータを活用して、強化ポイントを客観的に割り出し、今後の練習内容の変更につなげる。

【チームのカルチャー】

1. 情報の共有の習慣

□ 問題点：情報共有の習慣が無い事から、声掛けをせずに移動したため一名が移動バスに乗ってこない事が有った。これまでの少人数による大会参加の習慣が出たものと思われる。

□ 今後の課題：組織が大きくなるにつれ、情報の集約と共有が非常に大事になってくる。情報共有の習慣を持つ必要が有る。

【その他】

1. サポートスタッフが集まらない場合は、今回のサポート業務の取捨選択を行う必要が有る。

2. ライブ中継の効果を数字でモニターし続ける。(例)入会者数の増加など。

9、参考記録

(1) 最終順位、メダル獲得国

- ・日本はベスト8以上がなくポイントなしに終わる
- ・オーストラリアも同様、中国は不参加

TABLEAU DES MÉDAILLES					
Cl ^e	Nations	OR	ARGENT	BRONZE	TOTAL
1	FRANCE	2		3	5
2	CROATIE	2		2	4
3	ITALIE	1	3	1	5
4	ARGENTINE	1		1	2
5	SLOVENIE		3	2	5
6	ESPAGNE			1	1
6	MONTENEGRO			1	1
6	TURQUIE			1	1

CLASSEMENT GÉNÉRAL DES NATIONS								
Cl ^e	NATIONS	Double	Simple	Combiné	Précision	Progressif	Relais	TOTAL
1	France	6	4	6	6	10	10	42
2	Italie	8	6		10	8	8	40
3	Slovénie	6	8	8	8	4	6	40
4	Croatie	10	6	10		6	4	36
5	Argentine	2	10	6	4	4	4	30
6	Monténégro				4	6	2	12
7	Bosnie Herzégovine	4		2		2	2	10
8	Turquie					2	6	8
9	Monaco	4		2	2			8
9	Suisse		4	4				8
11	Espagne				6			6
12	Chili			4				4
13	Algérie				2			2
13	Libye	2						2
13	Serbie		2					2
13	Tunisie		2					2
17	Allemagne							
17	Australie							
17	Estonie							
17	Etats-Unis							
17	Hongrie							
17	Japon							
17	Lettonie							
17	Liban							
17	Maroc							
17	Maurice							
17	Portugal							
17	Slovaquie							

(2) ラピッド

(備考 : AUS 不参加)

S	RELAIS	S
---	---------------	---

QUALIFICATIONS												
			Sco.	Bar.	Cl.				Sco.	Bar.	Cl.	
1.	BIH	GRANCIC M / CORLUKA A	43/55		8	9.	MON	TRICHARD A / LAABIDI W	30/53		12	
2.	LBA	ELSEGHER A / DEYA A	35/55		9	10.	MNE	STJEPCEVIC G / BELAN I	49/57	23/31	6	
3.	ALG	BENSLIM M / BELTAYEF I	35/54		9	11.	CHI	TOSO G / GONZALEZ I	25/53		13	
4.	SRB	BALAC M / SERAFIMOVIC N	34/55		11	12.	CRO	CUBELA M / MILICEVIC M	54/60		2	
5.	ITA	PEGORARO S / FERRERO E	53/60		3	13.	MRI	JADOO V / FABRICE V	9/46		16	
6.	TUR	CAN YAKIN M / ALTAY B	44/60		7	14.	HUN	KASA A / FODOR C	16/49		15	
7.	ARG	HECKER L / FARIAS H	49/58	26/30	5	15.	SVK	OBROCNIK D / SLAVIK M	19/49		14	
8.	FRA	CHIRAT A / MARSENS F	55/61		1	16.	SLO	PETRIC A / POVH G	52/61		4	

1/4 DE FINALE						
A	4.	SLO	PETRIC A / POVH G	53/61		Q
	5.	ARG	HECKER L / FARIAS H	50/58		
B	3.	ITA	PEGORARO S / FERRERO E	51/60		Q
	6.	MNE	STJEPCEVIC G / BELAN ILJIA	48/57		
C	2.	CRO	CUBELA M / MILICEVIC M	51/60		
	7.	TUR	CAN YAKIN M / ALTAY B	54/59		Q
D	1.	FRA	CHIRAT A / MARSENS F	55/60		Q
	8.	BIH	GRANCIC M / CORLUKA A	46/56		

1/2 FINALES						
1	B.	ITA	PEGORARO S / FERRERO E	57/60		Q
	C.	TUR	CAN YAKIN M / ALTAY B	52/60		
2	D.	FRA	CHIRAT A / MARSENS F	54/61		Q
	A.	SLO	PETRIC A / POVH G	53/61		

FINALE					
1	ITA	PEGORARO Stefano / FERRERO Emanuele	53/60		2
2	FRA	CHIRAT Alexandre / MARSENS Frédéric	55/61		1

PODIUM					
	FRA	CHIRAT Alexandre MARSENS Frédéric			
	ITA	PEGORARO Stefano FERRERO Emanuele			
	SLO	PETRIC Anže POVH Gašper	TUR	CAN YAKIN Mehmet ALTAY Burak	

以上